

2008 年 9 月 17 日

滋賀県

株式会社セブン-イレブン・ジャパン

～滋賀県とセブン-イレブン・ジャパン～

『地域活性化包括連携協定』を締結

～地産地消、健康増進、高齢者支援等 10 分野で相互連携開始～

滋賀県（県知事 嘉田由紀子）と株式会社セブン-イレブン・ジャパン（東京都、代表取締役社長 最高執行責任者<COO>山口 俊郎）は、2008 年 9 月 17 日（水）、地産地消や健康増進、高齢者支援等 10 分野において相互の連携を強化し、滋賀県内における地域の一層の活性化に資する『地域活性化包括連携協定』を締結いたします。

なお、滋賀県が民間企業とこうした包括協定を結ぶのは今回が初めてとなります。

記

1. 協定の名称 『地域活性化包括連携協定』

2. 協定締結日 2008 年 9 月 17 日（水）

3. 協定締結の目的

滋賀県とセブン-イレブン・ジャパンの、地域活性化に向けた緊密な相互連携・協働の取組による、県民サービスの向上および地域の活性化

4. 連携事項

上記の目的を達成するために、次の項目について連携し協力していきます。

- ① 地産地消および滋賀県オリジナル商品の販売やキャンペーン実施に関するこ
- ② 県産の農林水産物、加工品、工芸品の販売・活用に関するこ
- ③ 健康増進・食育に関するこ
- ④ 高齢者・障害者支援に関するこ
- ⑤ 子ども・青少年育成に関するこ
- ⑥ 観光情報および観光振興に関するこ
- ⑦ 環境保全に関するこ
- ⑧ 地域の暮らしの安全・安心の確保に関するこ
- ⑨ 災害対策に関するこ
- ⑩ その他、地域社会の活性化・住民サービスの向上に関するこ

＜ご参考＞

滋賀県内のセブン-イレブン店舗 159 店舗（2008 年 8 月末現在）

具体的な連携事項

(1) 地産地消および滋賀県オリジナル商品の販売やキャンペーン実施に関すること

【実施】

- 県産農林水産物・畜産物を活用し、滋賀県にちなんだ「味」「料理」の商品を提案するとともに、セブン-イレブンオリジナル商品の開発・販売を行う
 - ・イメージポスター等の販促物を作製し、セブン-イレブン店頭に掲示・告知する
 - ・滋賀県の情報発信シンボルマークである「Mother Lake」等を対象商品に添付し告知活用する
 - ・滋賀県の地産地消キャンペーン「おいしが、うれしが」に参加し、対象商品を告知活用する
- セブン-イレブン店舗を活用した商品展開の実施
 - ・滋賀県内のセブン-イレブン店舗 159 店舗（2008 年 8 月末）にて商品展開を実施
 - ・この店舗網を活かし、地域の味を県内に広く紹介することで、「滋賀」の再発見をいざない、地域活性化・郷土への理解の深耕に努める
 - ・地域で生産された原材料を活用することで、地域生産者の活性化につなげる
 - ・セブン-イレブンにおける商品紹介等情報発信や販売を通じ、滋賀県の更なるイメージの向上に協力する

【検討】

- 農業高校等と連携し、地元特産物を活用した商品開発に関する意見交換
- 地場産業の活性化
 - ・地域産業・文化に根ざした、地方性豊かな商品の販売・告知

(2) 県産の農林水産物、加工品、工芸品の販売・活用に関すること

【検討】

- 県特産「湖魚佃煮」、「漬物」、「近江茶」等をセブン-イレブン店舗で販売
- 県特産品をセブン-イレブンギフトで販売
- 県内特産の直売所（期間限定）の設置（一部特定店舗）

(3) 健康増進・食育に関すること

【実施】

- 販促物等による地産地消の普及啓発
- 県産品を活用した「おにぎり」「弁当」「総菜」等継続した商品開発と販売

【検討】

- 健康増進や食育に関するポスターの掲示
- 各店舗でのサイクリングマップの掲示

(4) 高齢者・障害者支援に関するここと

【実施】

- 高齢者・障害者が安心して利用出来るユニバーサルデザインの推進(店内スペースによる)
 - ・高齢者にも見やすい大きな文字での値札の設置
 - ・車イスの方と健常者が容易にすれ違うことができる通路幅を確保
 - ・障害者専用スペースが確保
 - ・車イスの方でも利用できるトイレ（洋便室）
 - ・駐車場から店舗内まで段差がない店舗配置
- 食事配達サービス「セブンミールサービス」の積極的な展開
 - * 「セブンミール」とは管理栄養士が監修したバランスのとれた総菜や簡単に調理できる食材セット等を提供するサービス
- 御用聞きサービスの展開〔買物困難者（主に高齢者）へ商品配達を実施〕
 - ・県内 16 店舗で実施中（距離、時間帯、商品等には制限有り）
- 県内の障害福祉サービス事業所等が生産した授産品の販売（一部店舗）

【検討】

- 認知症の方への支援
 - ・行方不明者の発見への協力
- 御用聞きサービスの展開拡大

(5) 子ども・青少年育成に関するここと

【実施】

- 県内中学生を対象に行われる職場体験（中学生チャレンジウイーク事業～中学2年生5日間職場体験）の受け入れ
 - ・県内直営店をはじめ既に実施している店舗も含めて、順次協力店舗を拡大
- 県民・企業が参加する子育て支援の仕組み作りへの助言・意見交換
- セブン銀行協賛「森の戦士 ボノロン」をセブン-イレブン店頭にて無料配布
- セーフティステーション活動による青少年健全育成への取組み
 - ・未成年者への酒類、たばこの販売禁止、年齢確認の徹底
 - ・18歳未満への成人向け雑誌の販売、閲覧禁止、区分陳列の実施
 - ・少年、少女の非行化防止策（近隣住民の方の迷惑となるたまり場の防止策）

*セーフティステーション活動とは

2005年10月から社団法人日本フランチャイズチェーン協会に加盟する13社、全国約42000店のコンビニエンスストアが、社会的責任の一環として「安全・安心なまちづくり」および「青少年の健全化」に取り組む自主的な活動

【検討】

- 児童虐待防止の取組に対する協力（子ども虐待防止オレンジリボン運動への協力）

(6) 観光情報および観光振興に関するこ

【実施】

- 滋賀県観光者へのトイレ施設の開放

【検討】

- 県内文化観光情報の提供（ポスターの掲示、観光パンフレットの設置、近隣文化観光施設の紹介）＊一部特定店舗での周辺観光案内の実施
- 県内店舗を活用した『定時観光取組』への協力（集合場所）
- 滋賀県景観計画に定める「景観形成地域」への出店に際して、「周辺環境に配慮した店舗デザイン」の導入

(7) 環境保全に関するこ

【実施】

- セブン-イレブン配送車両のCO₂削減
(配送車両の自主管理基準作成、配送車に新型車載端末設置＝エコドライブ意識向上)
- 店頭の電力使用量の削減
 - ・蛍光灯にHf型蛍光灯を使用
 - ・季節、天候、時間帯で変化する採光量に合わせて、自動調整する連続調光装置を導入
- レジ袋削減の取組
 - ・お客様に対して、レジ袋不使用の声かけ実施（少量のお客様に対して）
- 森林伐採抑制への取組
 - ・お客様への割箸を「白樺」から、環境にやさしい「竹」へと変更

【検討】

- 県が主催する環境活動に関して、ボランティアとして積極的に参加
- レジ袋削減の取組
 - ・マイバッグ持参の促進、エコバッグの販売

(8) 地域の暮らしの安全・安心の確保に関するこ

【実施】

- セーフティステーション活動および滋賀県コンビニエンス防犯対策協議会会員としての地域の安全対策・防犯対策の取組
 - ・女性・子供の駆け込み対応
(急病・怪我・不審者につけられた時、迷子保護等、地域の駆け込み寺として地域住民の安全・安心をサポート)
 - ・自主防犯（強盗・万引き等の防止対策）・体制の整備
 - ・緊急事態（災害・事故）に対する110番・119番通報の実施
 - ・防犯カラーボール・防御盾の店内配備

(9) 災害対策に関すること

【実施】

■災害者の帰宅困難者に対する支援

- ・災害時、徒歩帰宅困難者に対して水道、トイレ、周辺情報を提供
- ・災害時に入手した被災状況等、情報のお客様への提供、行政や警察等への連絡

【検討】

■災害時に食料品や日用品の調達に協力

- ・災害時における緊急物資に関する協定の締結

(10) その他、地域の活性化・住民サービスの向上に関すること

【検討】

■滋賀県の広報誌や各種パンフレットを設置 ((仮称) 県政ミニ情報ステーションの設置)

- ・県広報誌「滋賀プラスワン」や湖国文化情報「れいかる」等の設置
- ・県内イベント等の周知
- ・文化振興や文化情報の発信

■地元商店街との連携

以 上